

「ちがさき自転車プラン」とみんなが主役の自転車まちづくり ～市民や事業者との協働で進めてきた10年間～

神奈川県 茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

1 はじめに



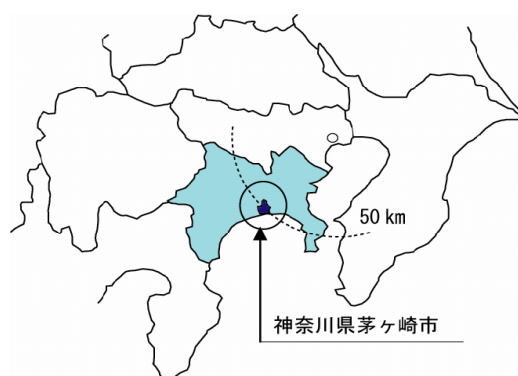
本市では、交通渋滞、交通事故、超高齢社会、環境への負荷といった諸課題に対応するため、交通体系整備の基本的な方針を示す「茅ヶ崎市総合交通プラン」を平成14年3月に策定しました。また、「茅ヶ崎市総合交通プラン」の基本方針「ひとを中心に考え、徒歩・自転車・公共交通を主体にしたバランスある交通体系の構築」に基づき、具体的な施策を示した「ちがさき自転車プラン」（以下、自転車プラン）を平成16年3月に策定しました。平成26年4月には、「第2次ちがさき自転車プラン」（以下、2次プラン）を策定し、引き続き取り組みを推進していくこととしています。

茅ヶ崎市の自転車に関する取り組みは、様々な関係者が関わり合いながら、工夫を凝らした取り組みを展開してきたことにその特徴があります。本稿では、自転車に関わるこれらの取り組みをご紹介しますと共に、自転車プランが本市の自転車まちづくりに果たした意義について考えてみました。

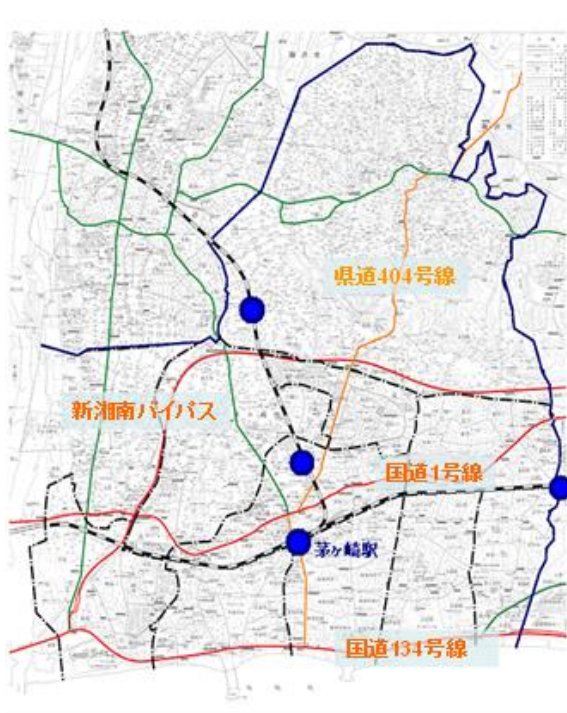
2 茅ヶ崎市の自転車を取りまく現況



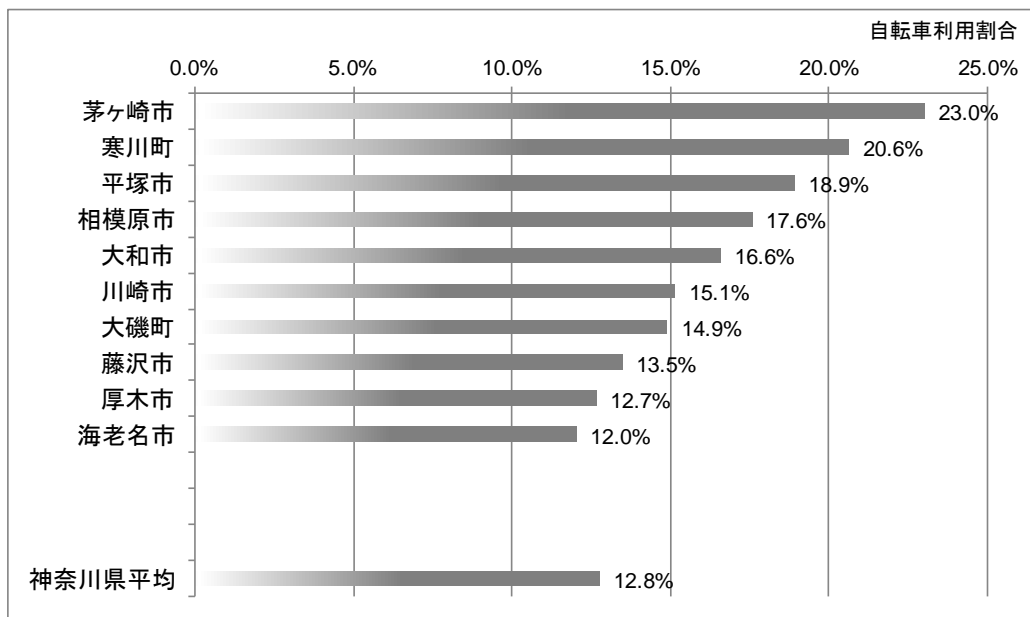
茅ヶ崎市は、東京から西に50 kmの神奈川県中央南部にあり（図表1）、面積は35.76平方キロメートルで、県下19市では7番目に小さな都市です。道路状況としては、東西・南北をつなぐ骨格となる国道や県道を市道が補完的に取り囲む構造となっており（図表2）、また、市域としては、東西6.94キロメートル、南北7.60キロメートルで、かつ平坦な地形が比較的多いことから、自転車の利用が多く、結果として自転車利用割合が県内で最も高くなっています（図表3）。



図表1 茅ヶ崎市の位置関係



図表2 道路、鉄道の状況



図表3 自転車利用割合が最も高い茅ヶ崎市（神奈川県内上位10市町）（出典：第5回東京都市圏パースントリップ調査結果）

3 これまでの取り組み



本市の自転車に関わる取り組みは、「自転車のまち 茅ヶ崎」を目指して、市民や事業者が工夫を凝らしながら主体的に取り組を進めてきました。以下、これまでの主な取り組みについてご紹介いたします。

3-1 市民・事業者との協働の取り組みについて

(1) レインウェアプロジェクト

「雨の日の傘差し運転防止や自転車のルール・マナーを守ってもらうにはどうしたらよいのか」ということをテーマに、市内の鶴嶺高校のファッション部と茅ヶ崎北陵高校の生徒会、両校の教職員やPTA代表の協力を得て、ちがさき自転車プラン・アクション22（※1）とともに「レインウェアプロジェクト」を立ちあげました。

「中高校生が着たくなるレインウェア」の開発に向けたワークショップを重ね、平成21年3月には試作品が完成。その後、茅ヶ崎高校、茅ヶ崎西浜高校、寒川高校の3校が加わり、県立高校生徒会合同会議としてレインウェアを製品化しました（平成23年2月）。



高校生がデザインしたレインウェア

（※1）「ちがさき自転車プラン・アクション22」とは？

「ちがさき自転車プラン・アクション22」は、市民12名及び都市政策課、安全対策課で構成された市民と行政の協働組織として平成18年8月に発足し、ちがさき自転車プランに位置づけられた施策の企画、立案、検討、実行し、プランの将来像である『人と環境にやさしい自転車のまち 茅ヶ崎』の実現を目指し活動しています。

(2) サイクルアンドバスライド

出発点（自宅）からバス停まで自転車で行き、バス停付近に設置しているサイクルポートに駐輪して、バスに乗り換えて駅などの目的地まで向かうシステムを、平成16年度の社会実験から開始しました。現在、市内8カ所、計200台のラックを設置しており、神奈川中央交通㈱と連携しながら、公共交通不便地区の解消や自転車と公共交通の連携を図っています。



市内に設置されているサイクルアンドバスライド

(3) ちがさきヴェロ・フェスティバル

「自転車のまち茅ヶ崎」を広くPRするとともに、様々な角度から自転車を体感できる自転車の都市型総合イベントとして、平成24年度から開催しています（「ヴェロ」はフランス語で自転車という意味）。中央公園の外周を特設コースに見たてたエキシビジョンレース「ちがさきクリテリウム」では、ゲストとして茅ヶ崎市出身の自転車ロードレーサー別府史之選手を迎え、プロ選手の迫力ある走りを多くの来場者に体感していただきました。



エキシビジョンレース「ちがさきクリテリウム」

会場となった中央公園内では、自転車障害物競争である「ちがさきサイクリストグランプリ」や「キッズ自転車競走」、「サイクルジャージコンテスト」など、多数の体験型のイベントも催されました。（主催：ちがさき VELO FESTIVAL 実行委員会）

(4) 自転車点検

神奈川県自転車商協同組合茅ヶ崎・寒川支部は、市内の小学校、県立高校、イベントなどで継続的に自転車点検を実施し、自転車の安全利用を影で支える活動を積極的に行ってきました。平成26年は、10会場で約3,850台の自転車の点検を行いました。(神奈川県自転車商協同組合茅ヶ崎・寒川支部)



市内高校での自転車点検の様子

(5) 自転車ルール講習会

茅ヶ崎地区交通安全協会の指導により作成されたコースで実車で講習と茅ヶ崎警察署員による座学講習を通じ、自転車の正しい乗り方やルール・マナーについての講習会を毎年、継続的に実施しています。26年度は、神奈川県自転車商協同組合茅ヶ崎・寒川支部の協力により、自転車点検の大切さについての講義も実施されました。お年寄りから子供まで、幅広い年齢層が参加しており、26年度は、52人が参加しました。(主催：茅ヶ崎市交通安全対策協議会、指導：茅ヶ崎地区交通安全協会・茅ヶ崎市、監修：茅ヶ崎警察署)



自転車ルール講習会

(6) オリジナル「自転車止まれ」ステッカー大作戦！

小学生を対象として、学区内でのまち歩きなどを通じて、自転車で通行する上で危険な箇所をお互いに話し合ってもらおうと共に、子ども達の手でデザイン作成した「自転車止まれ」ステッカーを地域の方々と一緒に危険な箇所に自ら貼ってもらう事業を継続的に実施しています。この取り組みを通じて、日頃の自転車の乗り方を見直してもらい、また、危険な箇所を認識してもらおうきっかけづくりを行っています。(市内小学校、関係自治会、青少年育成推進協議会、保護者、ちがさき自転車プラン・アクション22、茅ヶ崎警察署との協働事業)



ステッカー貼り付けの様子

(7) 市立小和田小学校4年1組によるプロジェクト

同小学校4年1組は、25年度に「オリジナル『自転車止まれ』ステッカー大作戦！」

(p.5参照)に参加したことで、自転車への関心が高まり、26年度の「総合的な学習の時間」でも引き続き、自転車の乗り方についての学習を進めてきました。その中で児童は、自転車事故が多い地域の交差点において、ルールを守っていない自転車利用者があることに気づき、自転車利用ルールを同交差点にて地域の人に発信する活動を行いました。手作りの看板とチラシを活用した呼びかけにより、大人たちが車道の左側を通行し、人の流れが変わっていく様子を児童たちは目の当たりにしました。

本市では、市民が問題意識をもってその解決に取り組む力があり、さらにはまちを変えられることができると感じています。(小和田小学校、保護者、本宿自治会、子どもの安全見守り隊、茅ヶ崎警察署、茅ヶ崎市)



活動の様子

(8) キープレフトプロジェクト

茅ヶ崎・寒川地区の県立高校生がちがさき自転車プラン・アクション22とともに、自転車の車道左側通行を促すためのプロジェクトを実施しました(23年度~24年度)。「自分達の高校でキープレフトができるようになるにはどうしたらよいか?」などをテーマにワークショップを行いました。そして、「自転車左側通行を意識してもらうためにはどんな啓発グッズが有効か」についても話し合い、啓発グッズとして前輪に装着するプレートなどを作成しました。



高校生考案の
自転車キープレフトプレート

(9) 法定外路面標示有効活用社会実験

本市は自転車専用レーンを設置できる幅員の道路が限られていることから、自転車と自動車とが混在した空間において自転車が安全・快適に走行できる環境を作ることが課題となっておりました。そこで、自転車の走行空間を確保し、自動車ドライバーへも自転車に配慮した走行を促すため、自転車の走行位置を路面標示で示し、その有効性を検証する社会実験を実施しました。実施にあたっては、地域自治会や神奈川県立西浜高等学校の協力を得ながら、啓発活動や必要なデータの収集を行いました。ここで決定した路面標示のデザインが現在では他の路線で展開されています。



左富士通りの路面標示

(10) ちがさき自転車走行環境調査(20～21年度)

自転車の走行空間が十分でない道路、見通しのよくない交差点などにおける自転車の走行環境が課題となっていることを受け、市内の道路の安全性、快適性などについて、ちがさき自転車プラン・アクション22などの協力を得て、実態調査を行いました。いわゆるママチャリを使った実車での調査で、中心市街地などを重点調査地区とし、その他主要幹線道路の調査を行いました。また、調査結果を基に、ネットワーク化検討のためのワークショップを開催しました。



(左)
調査前のガイダンスの風景

(右)
調査結果を基に試作した自転車で走行する際の道路の安全性・快適性を示す自転車マップ



(1 1) 交通安全リーフレット

茅ヶ崎市は自転車を利用する市民が多いこともあり、全事故に占める自転車事故の割合も高くなっています。こうした状況を主に新たに茅ヶ崎市へ転入してくる方にご理解いただくために、(株)ミヤタサイクルの協力により、交通安全リーフレットを本市に転入される方などに配布しています。



転入者に配布されるリーフレット（表紙）



リーフレットの中身

(1 2) 自転車走行デモンストレーション

県立茅ヶ崎西浜高等学校の生徒がちがさき自転車プラン・アクション22のメンバーと共に、自転車専用レーンや法定外路面標示を走行する、自転車走行のデモンストレーションを26年度から実施しています。

「自転車は乗れば車のなかまいり」の標語に合わせ、市民に対して自転車の車道左側走行を訴えるとともに、生徒自らも自転車走行ルールについて学ぶ機会となっています。



自転車走行デモンストレーションの様子

(13) 自転車ラックバス

神奈川中央交通(株)が、バスの前面に積載用ラックを設ける方式として全国で初めて茅ヶ崎市内で試験運行を開始しました(平成21年)。現在は、市内で本格運行をしている他、他地域での導入も進んでいます。



自転車ラックバス

(14) アロハちがさきによる KEEP LEFT プレート

「おしゃれに走ろう『KEEP LEFT』」—アロハちがさきは、自転車利用者の車道左側通行を促すため、自転車の前かごに取り付けるプレートを、本市の市民活動げんき基金をもとに、26年度より製作・販売しています。このプレートは、自転車に取り付けて自らが自転車の車道左側通行を心がけるとともに、他の自転車利用者にそれを促す効果が期待されています。市内では、自転車の車道左側通行を促すプレートが3つの団体によって製作されており、各々が「自転車のまち茅ヶ崎」から、市内、そして全国にむけて KEEP LEFT を発信しています。



KEEP LEFT プレート

(15) 地域、関係団体と連携した啓発活動

地域や関係団体、事業者と連携しながら、夜間の無灯火自転車撲滅や、国道、県道、市道における自転車専用レーンや法定外路面標示の設置に伴う周知などのための街頭啓発活動を継続的に実施しています。今後においても引き続き、自転車の安全な利用に向けて、地域や警察、茅ヶ崎地区交通安全協会と連携しながら、取り組みを進めていきます。



地域と連携した
無灯火自転車撲滅街頭啓発活動の様子

3-2 商店街と連携した取り組みについて

(1) レンタサイクル社会実験/コミュニティサイクル社会実験

市内でのレンタサイクルの取り組みとしては、茅ヶ崎市商店会連合会のサイクルライフ研究委員会（※2）が、「環境にやさしい自転車のまちづくり」を目指し、平成12年よりレンタサイクル事業を行っています。毎年のように増え続ける放置自転車や不法投棄の自転車削減に向け、まだ使える自転車を再生し、買い物などに利用してもらうことを目的としたエコ・サイクル「レンタ号」として実施していました。



実験で使用したシティサイクル

平成16年11月～平成17年9月に実施した社会実験は、商店会連合会が実施しているレンタサイクル事業の全面的な協力を得て、市内の小売店をサイクルポートとして実施しました（自転車54台、サイクルポート23箇所（最終的に20箇所））。



市内イベントと併せた貸出実験も実施

平成21年度には、国土交通省が「先導的都市環境形成促進事業」として実施するコミュニティサイクルに関するシステム開発ケーススタディ実施都市に茅ヶ崎市が選定されました。

昨今のコミュニティサイクルは、機械式駐輪場の設置やポートの無人化が主流の中で、茅ヶ崎市は商店主などが対面式で貸し出し管理を行うアナログ方式のコミュニティサイクルシステムの構築を目指しました。社会実験では、茅ヶ崎市商店会連合会や茅ヶ崎市観光協会に協力を得て、商店会連合会が実施している「エコ・レンタサイクル」実施ポートや「のきさき駐輪場」、駅の観光案内所を貸し出し場所として、利用料金1回300円で実施しました。サイクルポート数は19箇所、自転車は、シティサイクル48台用意し、3人乗り自転車（幼児2人同乗用基準適合車）も3台用意しました。また貸し出し・返却の情報を一元管理できるようコールセンターを設置しました。

（※2）「茅ヶ崎市商店会連合会 サイクルライフ研究委員会」とは？

茅ヶ崎を潮風を感じて走る自転車のまちとしていくには、どうしたらいいのか、自転車が最大限に利用できるまち・商店街にするための環境づくりを考えるため、平成15年に発足しました。市民、学生、商業者、自転車商、メーカーが環境にやさしい自転車のまち茅ヶ崎を目指して、活動しています。

(2) のきさき駐輪場

茅ヶ崎市商店会連合会のサイクルライフ研究委員会の取り組みで、市街地の商店街で店舗の空きスペースを駐輪場として開放している取り組みです。他の店舗での利用も可能で、市内13カ所で展開しています。



のきさき駐輪場

(3) 自転車ナビライン

ラチエン通りの環境整備などを目的に地域住民の有志で結成した「ラチエン通りの安全・安心を進める会」は、自転車の左側走行の誘導を目的として、約1.6km区間、50m間隔に自転車ナビシートを敷設しました。

茅ヶ崎市商店会連合会のサイクルライフ研究委員会などと社会実験を行い、その後、本格実施に至っています。



ラチエン通りに敷設されている
自転車ナビシート

(4) 箱根に車輪は走る・潮風散歩ツーリング～75年前 の自転車ハイキング～

昭和14年に地域新聞「明朗の茅ヶ崎」主催で行われた「自転車ハイキング」を再現しようという茅ヶ崎市商店会連合会・サイクルライフ研究委員会の取り組みです(平成26年11月実施)。茅ヶ崎市の厳島神社を出発し、長距離コースは箱根湯本、短距離コースでは二宮町の川勾神社を目指しました。同委員会では、この取り組みの一環として、「自転車生活のルーツ・歴史展」と「未来の自転車サイズのまち・講演会」も併せて開催されました。



75年前当時の「自転車ハイキング」



今回開催の「自転車ハイキング」

(5) 第3回つくる展～「ちがさきチャリンコアートプロジェクト」など～

茅ヶ崎らしいまちづくりに賛同した8名のアーティストが自転車をテーマにした作品などを展示したアートプロジェクト（平成27年2月・3月実施）。会場となった茅ヶ崎市美術館では、自転車にビーズをちりばめた作品 Aurola-bicycle-(齊藤寛之氏)や、えぼし岩をモチーフに自転車の車輪を使って製作した野外展示作品「輪の森」の他、参加型の体験できるアート作品など、アートに自転車の要素を加えた茅ヶ崎市ならではの展示が多くの来場者の目を楽しませました。（主催：南駅前商店会、協力：神奈川県自転車商協同組合茅ヶ崎・寒川支部）

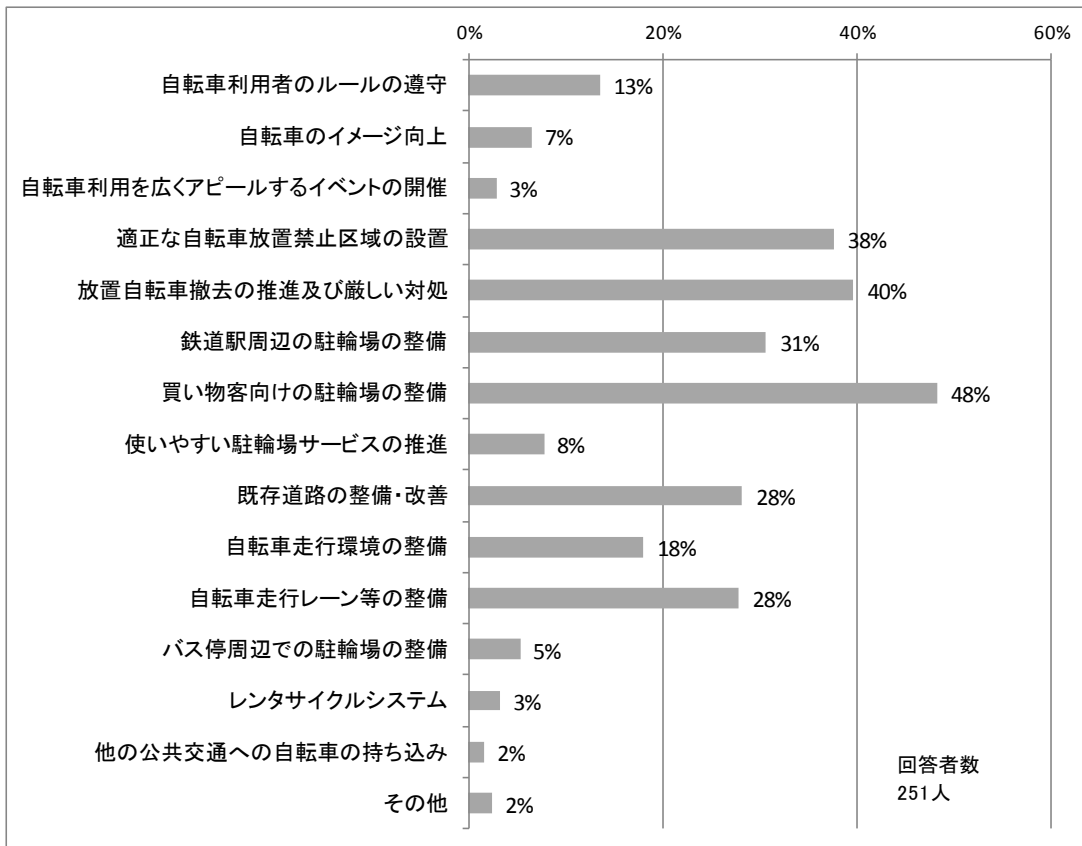


作品：Aurola-bicycle-(齊藤寛之氏)

4 「第2次ちがさき自転車プラン」について

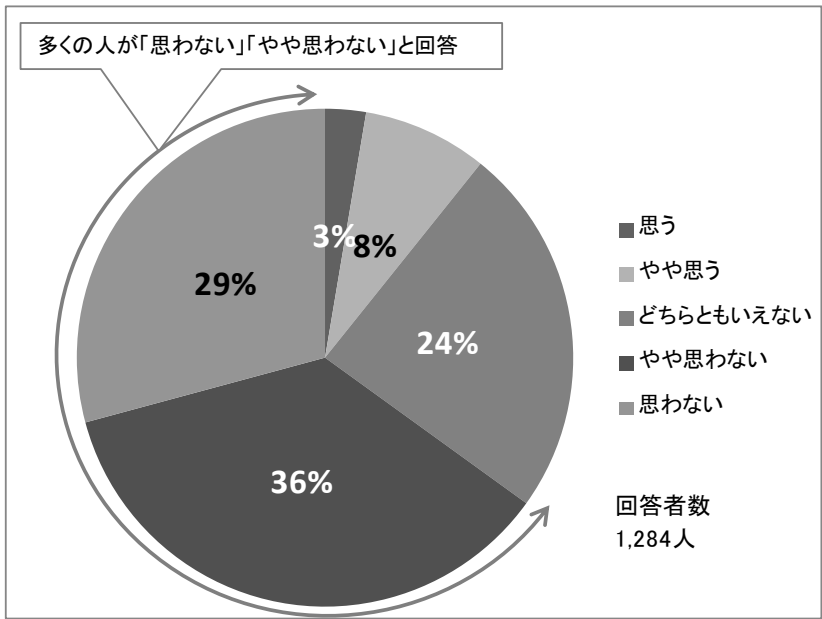


自転車プランの計画期間の最終年次に当たる平成25年度には、2次プランの策定に向けて、自転車の利用実態などを把握するための市民アンケートを実施しました。その結果、10年前の自転車利用環境と比べ、「買い物客向けの駐輪場の整備」など駐輪場の整備や「放置自転車撤去の推進及び厳しい対処」など放置自転車対策について「よくなった」と回答した人が多くみられましたが、その一方で「自転車利用者のルール遵守」について、「よくなった」と回答した人は全体の13%にとどまる結果となりました（図表4）。

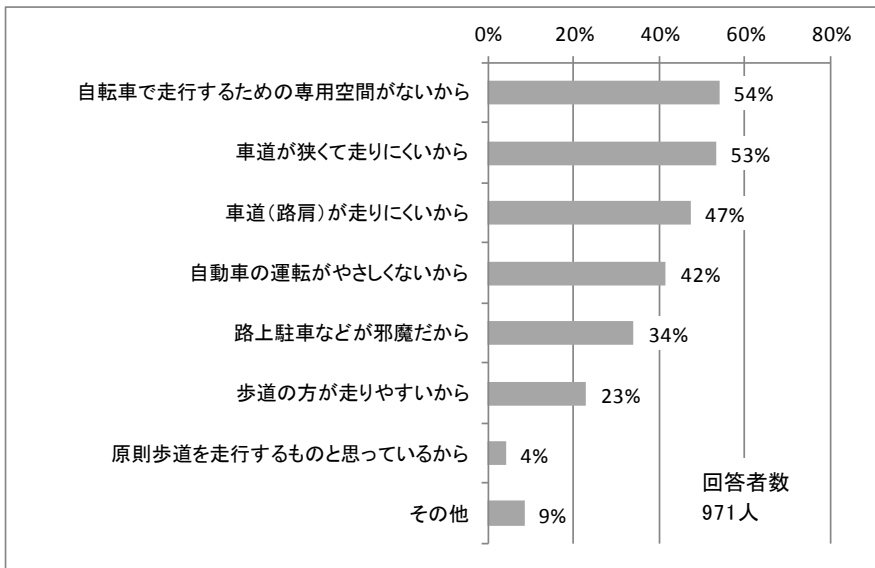


図表4 10年前と比べて自転車を利用する環境としてよくなった点（複数回答）（出典：自転車利用に関するアンケート（平成25年度 都市政策課））

自動車ドライバー、歩行者の立場から見たアンケート結果では、多くの方が「自転車利用者は自転車利用ルールを守っていない」実態が伺えました（図表5）。また、自転車走行環境に関しては、「車道で走行するための専用空間がないから」、「車道が狭くて走りにくいから」の回答が多く、自転車の走行環境整備が十分ではない状況を知ることができました（図表6）。



図表5 自動車ドライバーや歩行者からみて自転車利用者は自転車利用ルールを遵守していると思うか
 (出典：自転車利用に関するアンケート(平成25年度 都市政策課))



図表6 自転車で歩道を走行する理由(複数回答)(出典：自転車利用に関するアンケート(平成25年度 都市政策課))

こうした自転車利用に関する本市の状況を踏まえ、自転車のまちづくりの方向性などについて、次のとおり位置付けることとしました。

人と環境にやさしい 自転車のまち 茅ヶ崎

～人を思い 風を感じ 暮らしを楽しみ 人・自転車を優先するまち～

おもいやりの人づくり (自転車の利用ルールの周知徹底)



① 自転車利用ルールの周知徹底 (重点)

- ・ すき間のない交通安全教育の実施
- ・ 地域、関係団体との協働による啓発活動

② 他者への“おもいやり”精神の醸成 (重点)

- ・ 段階的かつ体系的で、地域・学校の環境に応じた自転車交通安全教育の推進
- ・ 市民が問題意識に気づき、考え、正しい行動を自発的にとるような啓発活動

③ 自動車ドライバーへの啓発 (重点)

- ・ 自動車ドライバーへの自転車の車道走行等に関する啓発活動

風を感じる空間づくり (自転車の走行・駐輪環境の整備)



① 自転車走行空間の整備 (重点)

- ・ 自転車ネットワーク計画づくり
- ・ 自転車専用レーンや法定外路面標示を活用した自転車走行空間の整備
- ・ 既存道路の整備・改善 (道路空間の再配分)
- ・ 自動車走行速度の抑制

② 利用しやすい駐輪場の確保

- ・ 利用しやすい駐輪場の整備・運営

③ 放置自転車の解消

- ・ 自転車放置禁止区域の見直し・啓発活動

暮らしを楽しむ仕組みづくり (自転車の有効活用・利用促進)



① 自転車をシェアするシステムの検討・実施

- ・ レンタサイクルシステムの促進

② 自転車利用による健康づくり

- ・ 健康づくりに着目した自転車利用促進

③ 「自転車のまち 茅ヶ崎」のPR (重点)

- ・ ホームページやイベントでの情報発信、看板設置
- ・ (仮称) サイクルステーション設置の検討
- ・ 自転車を活用したライフスタイルの提案による自転車利用促進など
- ・ ブランドマークの創出による一体的な取り組みの推進

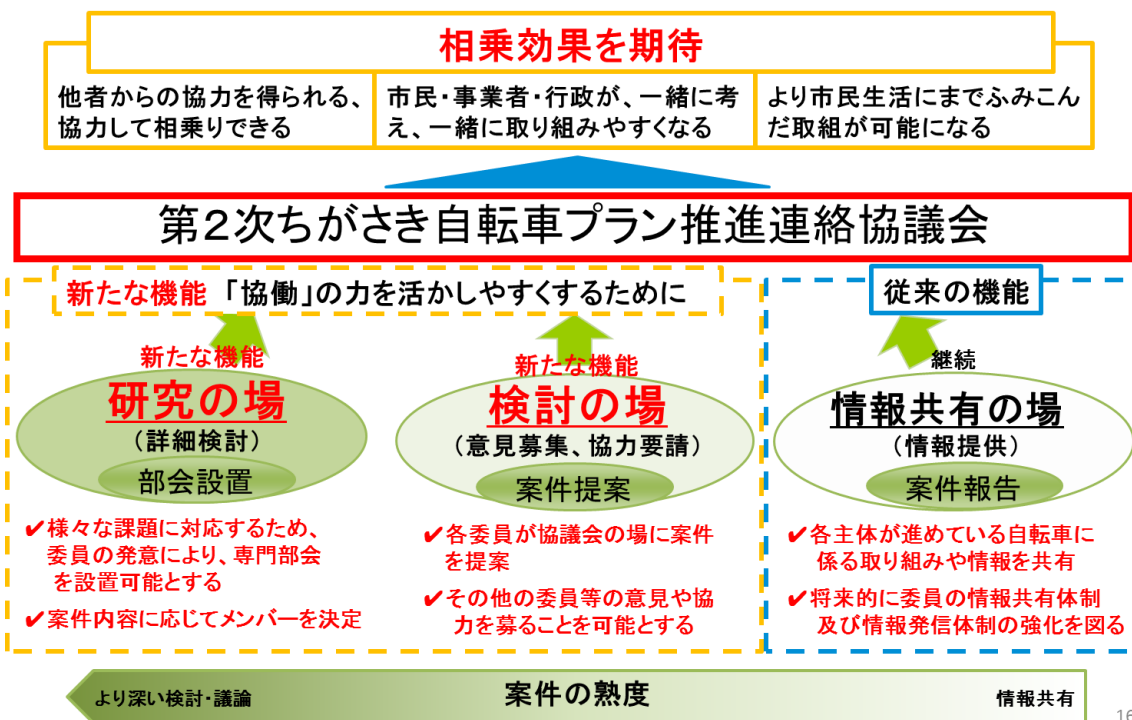
④ 公共交通機関との連携

- ・ 公共交通との乗り継ぎ利便性の向上
- ・ 公共交通機関への自転車の持ち込みの普及

5 第2次ちがさき自転車プランの推進体制



これまで見てきた本市における自転車施策は、市民、関係団体、事業者、市が、自転車を中心とした相互関係の中で良い影響を与え合いながら、成果をあげてきた経過があります。自転車プラン策定時に設置された「ちがさき自転車プラン推進連絡協議会」は、これら取り組みの情報共有や自転車プランの推進について議論をする場として機能してきました。そして、2次プランに至る時間の経過とともに、社会的な環境変化への対応や、2次プランの柱の一つである「おもいやりの人づくり」のような市民生活にまで踏み込んだアプローチが求められるなど、プランの推進組織には、さらなる進化が求められていました。こうした状況を受けて、新たに設置された「第2次ちがさき自転車プラン推進連絡協議会（図表7）」には、従来の機能に加えて、新たな2つの機能を備えていくこととしました。その一つが、各委員が協議会の場に案件を提案し、他の委員の意見や協力を募ることができる「検討の場」としての機能です。これによって、各委員それぞれが進めている取り組みの情報を共有するだけでなく、各団体の特色を生かした協力が得られる機会を設けました。新たに設けたもう一つの機能が、高度化する自転車に関する諸課題に対応するために「研究の場」として専門部会を設置できる機能です。ここでは、個別案件に特化し、関係者で課題内容を深めていくことができることとしています。



図表7 第2次ちがさき自転車プラン推進連絡協議会の機能等について

6 自転車のまち 茅ヶ崎のこれまで・これから



これまでの本市の自転車に関する取り組みを振り返ると、市民や事業者、関係団体の主体的な取り組みが非常に多いことが「自転車のまち ちがさき」の一つの特徴であると考えています。自転車利用が多い（P. 2 図表3参照）ことから、市民の自転車への関心はもともと高かったことが伺われますが、こうした市民の一人一人が持っている関心をまとめ、集めて、行動にまでつなげることの一翼を自転車プランが担ってきたのではないかと感じています。様々な関係者が出会い、良い刺激を与え合い、相乗効果が生まれ、そしてみんなが活躍できる「場」があることが、これまで、そしてこれからも非常に重要な観点であると考えています。

本市の自転車のまちづくりは、まだまだ残された課題も多い状況にありますが、市民や事業者の活動の一つ一つが積み重なり、まち全体を盛り上げていくことが、自転車のまちとしての茅ヶ崎市を牽引していく力になっているものと考えております。

今後もこれまでの取り組みの軌跡を本市ならではの財産として大切にし、市民、事業者、関係団体との協働による自転車のまちづくりを積極的に進めてまいります。